

トップインタビュー

TOP INTERVIEW

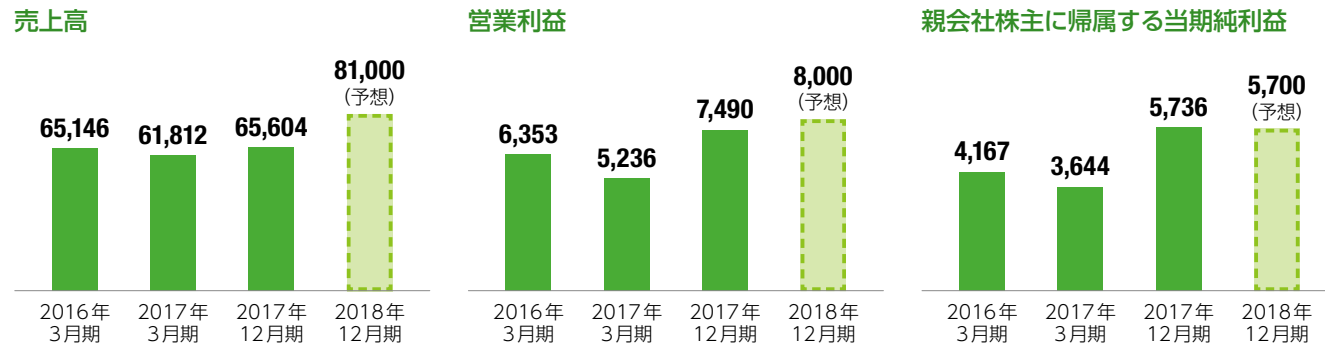
本年3月29日、当社グループの更なる発展・飛躍を図るため、新たな経営体制をスタートさせました。本特集では、金子新会長と古川新社長に、当期の業績と今後の成長戦略について伺いました。



代表取締役社長
古川 健一

代表取締役会長
金子 雄二

■ 連結損益計算書の概要 (単位:百万円)



※ 2017年12月期は事業年度変更に伴い、9か月の変則決算となっております。

Q.1 2017年12月期の業績について教えてください。

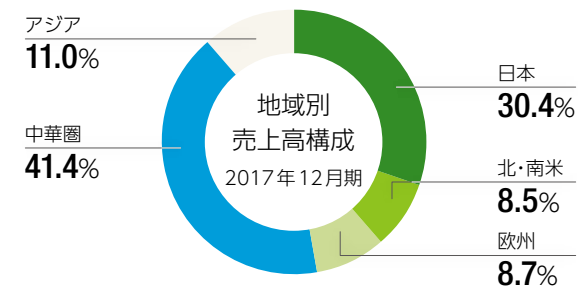
金子 当社の最大のマーケットである中国において、ものづくりの高度化や自動化対応、中国政府の補助金政策の影響もあり、電動化が進む自動車関連や高機能化するスマートフォン関連を中心に高水準な受注、販売が見られました。足元では、例年受注が減速する秋口以降においても幅広い産業から旺盛な需要が継続しています。国内では2017年3月に採択されたものづくり補助金が後押しとなり、自動車、スマートフォン関連を中心に受注・売上ともに堅調に推移しました。北米は前期まで好調だった自動車、航空宇宙、医療機器関連に一服感が見られましたが、期後半にかけて回復の兆しが見られました。欧州では、ロシア、トルコ等では厳しい状況が続きましたが、ドイツ、イギリス、イタリアを中心に自動車、航空宇宙関連から堅調な需



要が見られました。アジア地域においても自動車、スマートフォン、半導体関連などで回復基調に推移しました。

以上の結果、2017年12月期は売上高656億4百万円、営業利益74億90百万円と期初計画を大幅に上回ることができました。

地域別の売上高構成



2017年12月期の連結対象期間

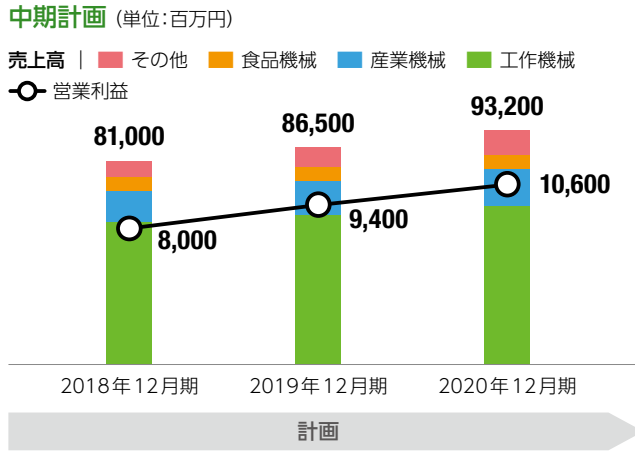
決算会社	2017年3月期				2017年12月期			
	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	
1-3月	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	
3月決算会社	12か月				9か月			
12月決算会社	12か月				12か月			

※ 12月決算会社は、中国の連結子会社7社です。

Q.2 2018年12月期通期業績見通し、中期経営計画について教えてください。

古川 米国政権の政策や欧州の政治情勢、北朝鮮情勢の緊迫化などに対する懸念はあるものの、最大のマーケットである中国での販売増加を見込んでおり、売上高は810億円と過去最高を更新する見通しです。利益面は、経営基盤の強化を図るため、人員増加、昇給を含めた人件費の増加及び設備投資の増加に伴う減価償却費等の固定費の増加を見込んでおり、営業利益は80億円を計画しております。

中期経営計画では、2020年12月期に売上高932億円、営業利益106億円を展望しております。工作機械事業では、全地域における放電加工機のシェアを拡大させるほか、金属3Dプリンタにおいて、金型分野での競争優位性



を高めると共に、部品加工分野への市場開拓により販売台数増加を図ってまいります。産業機械事業では、海外売上高比率70%以上に向上させるため、市場ニーズの高い全電動射出成形機「MSシリーズ」を拡販していきます。また、アルミニウム合金射出成形機「ALM450」、金属3Dプリンタで造形した金型専用の射出成形機「MR30」を本格的に販売をスタートさせ、新たな需要を創出させてまいります。食品機械事業では、工場拡張により生産能力を増強させ収益力の強化を図ってまいります。また、製麺技術の応用展開により、麺業界以外からの需要創出を図ってまいります。特に、国内外での需要増加が見込まれている、包装米飯製造装置の販路の確立を目指してまいります。更に、海外市場での需要を積極的に取り込むため、市場に適した製品開発を強化してまいります。

Q.3 株主還元について教えてください。

古川 将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、安定かつ継続的な配当を実施することを基本方針としており、DOE (株主資本配当率) 2%以上を目標としています。2017年12月期は、期末配当金を期初予想から2円増配し、1株当たり年間22円の配当とさせていただきます。2018年12月期は、1株当たり年間24円とし2円の増配を計画しています。

Q.4 株主の皆様に向けてのメッセージをお願いします。

古川 ソディックグループは中長期的成長を実現させるため、経営基盤の強化を進めており、各地域において設備投資を積極的に行ってまいります。生産拠点につきましては、国内では加賀事業所に多種多様な製品が生産可能なマルチファクトリーを建設するほか、海外でもタイ工場の第2工場を増設し、更なる受注増加に対応できる生産体制を構築してまいります。販売拠点につきましては、北米、欧州の新社屋を建設し、金属3Dプリンタ、放電加工機などを展示するショールームを拡張する等、販売・サービス体制を強化してまいります。中国上海にあるオフィスも移転し、更なる販売台数増加に対応するため、中国市場での販売体制を強化してまいります。研究開発については、横浜本社に新研究開発棟を建設しており、精密金属3Dプリンタ関連の研究開発、新電源、新世代CNC等の新



たな要素技術の開発、次世代技術の開発を強化してまいります。また、持続的成長のため、人員増加、人材開発、労働環境の改善など、優秀な人員確保のため人的投資を増強させてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

TOPICS 新製品

衛生的な製造システムで、安全安心な美味しいごはんを提供 無菌包装米飯製造システムを開発

製麺機の技術を応用し、家庭で炊いたような美味しいごはんを提供できる無菌包装米飯製造システムを開発しました。洗米から製品の出来上がりまで、ほとんど人手に触れずに製造できるシステムを構築し、高い安全性を実現。140℃の蒸気を活かした加圧釜により、短時間で無菌化でき、お米のうまみを最大限に引き出します。長期保存が可能なので、家庭内の備蓄食料のほか、海外での需要増加も期待されています。

